株式会社インラタクティーヴィ　番組審議委員会議事録

１．開催日時：　平成 28 年 6 月 10 日（金）　10 時 00 分～11 時 30 分

２．開催場所：　当社会議室

３．委員の出席：

委員総数：　7 名

出席委員数：　6 名

出席委員の氏名：

（敬称略、五十音順）大宅映子、音好宏、砂川浩慶、中村伊知哉、諸星裕、吉岡忍

欠席委員の氏名：

（敬称略、五十音順）大蔵雄之助

放送事業者側出席者：

株式会社インタラクティーヴィ

代表取締役社長　長谷一郎

チャンネル銀河株式会社　＜チャンネル銀河 歴史ドラマ・サスペンス・日本のうた＞

代表取締役社長　関本好則

取締役　住田和嘉子

編成部長　秋元美加

ジュピターゴルフネットワーク㈱　＜ゴルフネットワーク＞

代表取締役社長　石井政士

編成制作部長　保泉司文

編成制作部プロデューサー　菱谷光洋

株式会社ジュピターテレコム

上席執行役員　メディア事業部門長　村山直樹

事務局：

株式会社ジュピターテレコム

DTH 営業部　平本善一、前田鎮男、徳山真知子、田口聖美

４．議題

株式会社インタラクティーヴィで放送する 6 チャンネルの内、「チャンネル銀河 歴史ドラマ・サスペンス・日本のうた」、「ゴルフネットワーク」の番組内容、編成内容について。

５．審議内容

①「チャンネル銀河 歴史ドラマ・サスペンス・日本のうた」の編成及びオリジナル番組『西部警察　全国キャラバン!!　ロケ地巡礼　＃1』について、各委員より以下のような意見・質問がなされた。

・30 年前の番組を辿り、当時の関係者を訪ねて話を聞くというコンセプトは面白く、良い視点だと思った。
・「西部警察」を見たことがない視聴者も多いはずなので、「西部警察」のコンパクトな説明があったほうがもっと良い作品になった。
・今は爆破シーンの撮影が難しい時代。せっかく 30 年前の映像を使っているならば、その説明もあったほうが「西部警察」の希少価値も伝わったと思う。
・社会問題に踏み込んで、とまでは言わないが、この 30 年でどんな変化があったのかをさりげなく入れる知恵が欲しかった。
・ロケ地に訪ねていく 2 人の珍道中があるが、役割分担ができておらず、2 人とも同じトーンで、あまりにもコントラストがなかった。コンテンツの魅力というのは、きちんと作っているという信頼感なので、製作者がそれぞれの立ち位置を明確にして進めるべきだった。
・4K の魅力を伝えようというミッションは評価すべき点。

＜事業者回答＞
・進行役 2 人の役割として、1 人をメインにたて、もう 1 人がサポートするという座組みにしたかったが、うまく機能していなかった。しかしながら回を重ねるにつれ、それぞれのキャラクターが出てきて、役割はハッキリしてくる。
・この番組は 4K の映像の美しさ、魅力を伝えるための番組として制作をした。4K の映像をただ見ていてもその美しさはわからないが、当時の撮影現場を再び訪れ、30 年前の映像を差し込み、比較をすることで、映像の美しさの進化を見ることができる。
・番組は、北海道編から九州編まであり、各地にあるケーブルテレビ局は PR しやすい作品だったかと思う

②「ゴルフネットワーク」の編成及びオリジナル番組『ゴルフ真剣勝負　the MATCH』について、各委員より以下のような意見・質問がなされた。

・このような番組を作っていただいたことは嬉しいし、ゴルフ専門の TV メディアとして、さすがだと思った。
・タイトルにある“真剣勝負”と相反するコーナー（プライベートトークやレッスンなど）が詰め込まれており、純粋に番組を楽しみにしている人たちがこれで満足するのかは疑問。レッスン部分などは切り離し、2 人の対決だけにフォーカスを当てて制作したほうがゴルフ好きには

いいのではないか。

・“真剣勝負”というタイトルから、心臓がどきどきしているのが見えるくらいのものを期待していた。しかしながら、出演の 2 人の年齢が違うからか、先輩・後輩という構図になってしまい、真剣勝負には見えなかった。例えば、プロだからこそ賞金を用意するなど、プレーヤーにモチベーションを持たせるべき。

・マッチプレイの面白さは、相手がこういう状況だから自分はどうする、という駆け引きがあることだが、表現されていなかったのが残念。プレーヤーが何を考えてプレーしているかがわかるよう、本人の解説をナレーションで加えるなどしたほうが、ファンは嬉しいのでは。

・ルーキー紹介のコーナーがあったが、話し方が素人過ぎてしまい、ネット番組を見ているようだった。話し方、トークの内容など、製作者側が誘導してあげるべきだった。

・これだけたっぷり時間を使うのであれば、18 ホールできないのか？9 ホールとは、興奮度、試合の密度が全然違うと思う。

＜事業者回答＞

・マッチプレイが面白い、注目度だけではない個性的な選手も出演している点がいいなど、現場周りでは好評。しかし、ちょっと番組尺が長いという意見もある。

・マッチプレイだけでは飽きてしまうので、レッスン、キャディバッグの紹介、プライベートのトークなどを織り交ぜながら制作した。

・第 1 回の出演プロはサービス精神の多い 2 人。それもあり、真剣勝負感が薄れてしまったことは反省している。

・第 1 回の撮影時はシーズンオフの期間だったため、専属のキャディを帯同出来なかった。キャディとのトークにより作戦や駆け引きが見えてくるため、マイクをつけて撮影したかった。

以上